

人は冠婚葬祭の費用選択においても程よさを求めるのか

—妥協効果とゴルディロックス効果に着目して—

1621316 山之内心

Key words: 冠婚葬祭, 妥協効果, ゴルディロックス効果

目的

文脈効果とは、対象となる商品群に他の商品が追加されることで選好が変化する現象であり、その一つとして妥協効果が挙げられる(都築・松井・木村, 2006)。妥協効果とは、新たに追加した選択肢が、2属性において元々ある2つの選択肢の中間に位置する場合、新たに追加した選択肢の選択率が最も高くなる現象である(Simonson, 1989)。また、価格選択における文脈効果に関する先行研究では、3つの選択肢が提示された際、中間価格を選択しやすくなるゴルディロックス効果がよく知られている。これまでの先行研究では、ごく一般的な消費行動において私たちは他の情報からの影響を受けてしまうことが繰り返し示されているが、冠婚葬祭などの特殊な状況下の研究は行われていない。そこで、本研究では結婚式や葬儀式など冠婚葬祭場面における意思決定に着目し、検討を行った。

方法

手続き 調査参加者は大分大学の学生120名(男性61名, 女性58名) 平均年齢20.87歳($SD=0.97$)であった。質問紙法を用い、大学の講義中に配布し、その場で回答を求めた。

質問紙の構成 調査参加者は性別、年齢及び個人属性に関する質問票、冠婚葬祭場面の費用選択に関するシナリオに回答した。シナリオは、最初に中間価格有条件(結婚 a / 葬儀 b)・中間価格無条件(結婚 c / 葬儀 d)のシナリオ A に回答後、中間価格無条件(結婚 a / 葬儀 b)・中間価格有条件(結婚 c / 葬儀 d)のシナリオ B に回答を求めた。

結果

まず、妥協効果が生じるかを検討するため、選択肢が2択から3択に変化するシナリオの後半3択の選択率の差をフリードマン検定を用いて比較した結果、結婚式($\chi^2(2)=2.40, \eta^2=.03, n.s.$)と葬儀式($\chi^2(2)=3.50, \eta^2=.04, n.s.$)どちらにおいても主効果は認められず、妥協効果は生じていなかった。次に、ゴル

ディロックス効果を検討するため、選択肢が3択から2択に変化するシナリオの前半3択の選択率をフリードマン検定を用いて比較した結果、結婚式($\chi^2(2)=7.40, \eta^2=.10, p<.05$)と葬儀式($\chi^2(2)=16.8, \eta^2=.20, p<.01$)どちらにおいても主効果が認められ、ゴルディロックス効果は生じていた。しかし、結婚においては、中間価格と低価格の間は有意傾向に留まるため、完全に生じていたとは言い切れなかった(Table 1)。

Table 1
価格選択率の下位検定

		r	Z値	p値
結婚式	中間価格 - 低価格	-0.25	-1.94	+
	高価格 - 低価格	0.03	0.19	n. s.
	高価格 - 中間価格	0.28	2.13	*
葬儀式	中間価格 - 低価格	-0.26	-1.97	*
	高価格 - 低価格	0.21	1.58	n. s.
	高価格 - 中間価格	0.47	3.55	**

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

考察

本研究の目的は、日常の費用選択において生じている文脈効果が、冠婚葬祭場面でも生じるかについて、検討することであった。場面想定法実験の結果、冠婚葬祭場面においては妥協効果は生じないことが明らかとなった。この理由として、表品情報が本来の妥協効果の構造と異なっていたために妥協効果を十分に測定できなかった可能性がある。一方、ゴルディロックス効果については葬儀場面では顕著に生じることが明らかとなった。この理由として、大学生が現実的に葬儀式を想起することができず、ゴルディロックス効果が顕著に生じたと考えられる。今後、冠婚葬祭場面だけでなく、一般的な消費行動のシナリオも作成し、現実的に即した年代を対象に本研究の調査を行い、人々の消費行動をどこまで推し量ることができるのかについて検証する必要があるだろう。

引用文献

Simonson, I. (1989). Choice Based on Reasons: The Case of Attraction and Compromise Effects. *Journal of Consumer Research*, 16(2), 158. <https://doi.org/10.1086/209205>